

みんなでつながる♡

所属	三重県桑名市立久米小学校	実践者	清水 歩美
対象	小学1年生	時間数	9時間
場所	教室	実践教科	生活科、特別活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他国について知ることを楽しみ、世界とのつながりに気づく。 ・自分の今の生活に感謝し、物を大切にしようとする意識を育む。 ・他者との違いを受け入れ、周りの人とつながるために自分ができることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆とどけ、わたし(ぼく)たちのしおり ・世界にはいろいろな国があることを知る。 ・パラグアイに興味を持ち、パラグアイの子ども達に向けてしおりをつくる。	世界地図、地球儀 国旗、しおり用の紙
	2、3	◆パラグアイってどんなくに？ ・パラグアイの人々の生活や文化について知る。(フォトランゲージ) ・現地の物に触ったり、匂いを嗅いだりして五感で感じる。	パワーポイント資料 現地で購入したもの
	4	◆じつはあった！せかいとのつながり ～パラグアイのゴマをたべてみよう～ ・自分たちの作ったしおりが、パラグアイに渡ったことを知る。 ・生活の中に外国産のものがたくさんあることに気づき、世界とのつながりを感じる。 ・パラグアイ産のゴマについて知り、ゴマを食べることでパラグアイを身近に感じる	現地の学校での動画 現地の写真 パラグアイ産のゴマ
	5、6	◆いっぱいお世話になっているね ・自分たちの生活を振り返り、普段どんなものに関わっているかを考える。 ・「おともだち」を選び、クラスで共有する。(ブレインストーミング、書き出し)	模造紙 ペン
	7	◆みんなでつながるのってたのしいね ・クラス遊びを通して、人とつながっていることの楽しさに気づく。人とのつながりには、どんないいことがあるか考える。	
	8	◆わたしのあたりまえは、あなたのあたりまえじゃない？ ・「白ごはんのおともは？」を考え、共有することで他者との違いに気づく。 ・自分の当たり前が、世界ではそうでないことに気づく。	付箋 指導者研修資料
	9	◆わたし(ぼく)ができること クラスの友だちとよりよくつながっていられるために、自分にできることを考える。(ブレインストーミング、書き出し)	模造紙 ペン
	成果	様々なものを教材として児童たちに提示することで、五感で感じるが多く、興味関心を持って授業に参加できていた。「パラグアイに行きたい」「いろんな国にいつてみたい」という児童が増えた。参加型のアクティビティを取り入れることで、友だちの意見から多くの学びを得ていた。	
課題	実際の生活になると周りの友だちとの違いを受け入れることが難しい児童もいるため、授業で気づいた「自分にできること」を「実践する」へつなげる手立てが必要であると感じた。子ども達の実態からものを大切に作る姿勢も育ててほしかったため5・6限目を入れたが、全体の構成から少しずれてしまった。		
備考			

[授業実践の詳細]

2-3 時限目「パラグアイってどんなくに？」

この時限のねらい

- ・パラグアイという国に興味を持つ。
- ・現地の物に触れ、五感を使って、その国の文化や人々の生活を知ることを楽しむ。

1 子どもの活動の流れ

- ① パラグアイについてまとめたパワーポイント(人々の生活や現地の学校の様子などの写真・動画・クイズ)を見て、パラグアイについての概要を知り、興味を持つ。
- ② 現地のものを触ったり、匂いを嗅いだりしながら五感を使って、パラグアイという国を感じる。
- ③ パラグアイの人々の写真から、何をしているところなのか班で相談して考える。全員で意見を出し合い、正解を知る。
- ④ 感想を書く。

クイズ③
パラグアイのひとがのんでいるテレレ。
なにをのんでいるのでしょうか？



- ①おちゃ
 - ②オレンジジュース
 - ③ぎゆうにゆう
- せいかいは①おちゃでした!
(ちょっとにがいよ)

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ まだ日本以外の国の名前をほとんど知らない児童たちであるが、パラグアイのことに興味を持ち、「知りたい！」という気持ちを存分に出して、写真や動画を見ていた。クイズは、「え～！ そうなの？」「すご～い」といった反応も見られ、楽しんで参加している様子が見られた。特にボトルダンスの映像では「おお～」と歓声があがり、その迫力と美しさに目を輝かせていた。
- ◇ 現地のもの実際に触れることも、興味深々な様子だった。手に取り、匂いを嗅いでみたり、じっくり眺めたりしている児童もいた。
- ◇ フォトランゲージでは、子ども達のいろんな想像から「〇〇しているところじゃない？」「〇〇だと思うな」などいろいろな意見が出た。多くの班が正解をいい当てたことに驚いた。



【子ども達の感想】

- ・パラグアイのおんなの人はすごくきれいで、ボトルをのせるとこがすごいなっておもってわたしもやってみたくっておもいました。
- ・パラグアイのことをもっとしりたい。おかしなこといっぱいおぼえたから、(わたしも)パラグアイにいける。
- ・ニヤンドウティは、いろんないろがあってきれいでした。パラグアイにいつてみたいになりました。
- ・パラグアイにあるテレレをほんとにほんとにのんでみたいので、パラグアイにいつてみたいです。

3 使用した教材

- <教材1> パラグアイのことをまとめたパワーポイント
- <教材2> 現地で購入したもの・手に入れたもの(テレレの水筒、国旗、お菓子のパッケージ、お金など)
- <教材3> フォトランゲージ用の写真を印刷したもの(2種類×6枚)、感想用ワークシート

4 時限目「じつはあった！せかいとのつながり～パラグアイのゴマをたべてみよう～」

この時限のねらい

- ・自分たちの作ったものがパラグアイに渡ったことを知ったり、パラグアイのゴマを食べたりすることで、パラグアイを身近に感じる。
- ・自分たちの身の回りには、外国産のものがたくさんあることに気づき、世界とのつながりを知る。

1 子どもの活動の流れ

- ① パラグアイの学校の様子の動画を見て、自分の作ったしおりを現地の子も達が嬉しそうに受け取っている様子を見る。
- ② 自分の身の回りには、さまざまなつながりがあることに気づく。
(食べ物を作ってくれる人、野菜を育ててくれる人など)
- ③ 外国とのつながりはあるかどうか考える。
・韓国産の食べ物、アメリカ産の木で作られた鉛筆など、身近な外国産のものの紹介を聞く。
- ④ パラグアイのゴマが日本でも食べられていることを知り、ゴマを食べてパラグアイの人々の想いを感じる。
- ⑤ 外国とのつながりがなくなったら、どんな困ったことがあるか考える。
- ⑥ 感想を書く。

にほんのみなさん、ありがとう～！



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 現地の学校の動画では、自分の書いたものがだれの手にも渡ったのか緊張しながらも嬉しそうに見ていた。
- ◇ 普段何気なく使っている(食べている)ものの中に、外国から来ているものがあるということを知ると、「え～！」と驚いた反応も見られた。
- ◇ ゴマを食べる体験では、「おいしい」「大事にゆっくりたべね」と言いながら味わって食べていた。
- ◇ 「外国産のものが無くなったら・・・」という話では、「めっちゃこまる！」と言う児童とあまりピンと来ていない児童がいた。外国のものとのつながりをもっとしっかりおさえた後の方がよかったと感じた。

【子ども達の感想】

- ・ごまをたべておいしかったです。ごまのつぶは小さくて、しっかりかむとピーナツのにおいがしました。
- ・パラグアイの人とつながれてよかった。これからもいろんな人とつながりたい。
- ・みんながたのしいせかいで、あそびたいです。パラグアイのみんなとあそびたいです。

3 使用した教材

- <教材4> パラグアイの学校での写真、動画
- <教材5> パラグアイ産のゴマ
- <教材6> 感想用ワークシート



5-6 時限目「いっぱいお世話になっているね」

この時限のねらい

- ・自分の生活を振り返り、いかにたくさんの人やものに関わって生きているかに気づく。
- ・自分のもちものに名前を付け、大切にしようとする気持ちを育む。

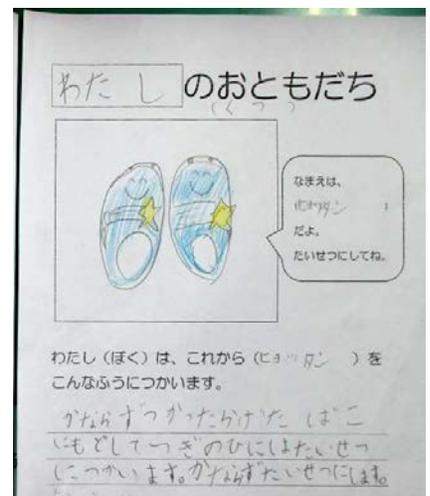
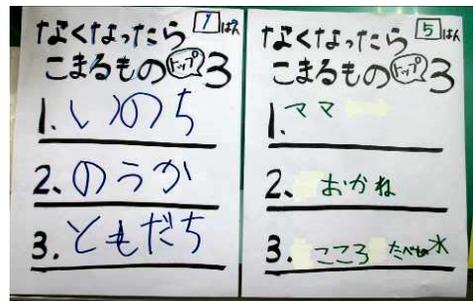
1 子どもの活動の流れ

- ① 今週1週間で、自分がお世話になった人・ものを考え、班でブレインストーミングをして模造紙に書き出す。
- ② 班ごとに出た意見の中から「なくなったらこまるもの TOP3」を班で考え、全体で交流する。
- ③ 自分が毎日使っているものを「わたし(ぼく)のおともだち」として決め、名前を付ける。ワークシートに書く。
- ④ その「おともだち」をこれからどうやって使っていくか考える。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ブレインストーミングでは、大きな模造紙にマジックでたくさん書くことを楽しんで行っていた。
- ◇ 普段なかなか意見が出せない児童も、班の子たちから良い影響を受けていた。考えすぎてしまって手が止まる子もいたが、「間違いはないよ。思いついたものは声に出してどんどんみんなに聞いてもらおう。」と伝えると、自信を持って書けるようになっていった。
- ◇ 「おともだち」として自分で名付けることで、そのものに対して愛着がわき、この授業後も大切にしている姿を見ることができた。



3 使用した教材

- <教材7> 模造紙 6 枚、マジックペン 28 人分
- <教材8> 「なくなったらこまるもの TOP3」ワークシート
- <教材9> 「おともだち」記入用ワークシート

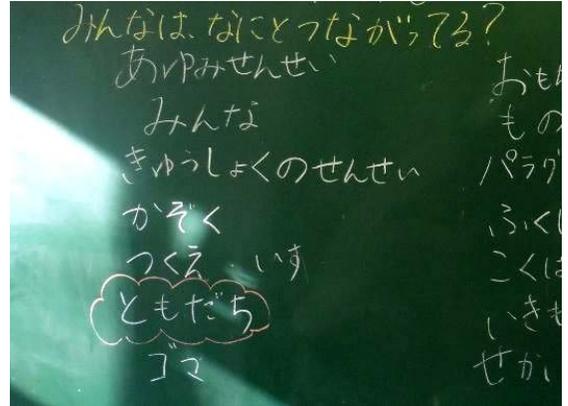
7 時限目「みんなでつながるのってたのしいね」

この時限のねらい

- ・日頃のクラス遊びを通して、みんなであそぶこと(人とつながっていること)の楽しさに気づく。
- ・人とのつながりには、どんな良いことがあるのか考える。

1 子どもの活動の流れ

- ① 自分たちにとって大切な「つながり」とは何かを考え、意見を交流する。(家族、ともだち、先生、ペットなど。)学校で大切にしたいつながりは、何かと考え、友だちの存在の大切さを確認する。
- ② クラス遊びで、「なんでもバスケット」「なべなべ底抜け」をする。
- ③ 人とつながることでどんな良いことがあるのか、考える。
- ④ 班ごとに発表する。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 毎週水曜日はお昼休みにクラス全員で遊ぶ「クラス遊び」を行っている。つながりの勉強をしたあとに全員で手をつないで丸くなると、「つながってるね」「たのしいね」と嬉しそうにしていた。
- ◇ 普段のクラス遊びよりも、つながりを感じている児童が多かったように感じた。

【子ども達の感想】

- ・みんなであそぶのは、やっぱりたのしいです。
- ・手をつなぐと、みんなでつながっているみたい。大きいわになったみたい。
- ・クラスあそびってたのしいから、もっともっとなりたいな。



8 時限目「わたしのあたりまえは、あなたのあたりまえじゃない？」

この時限のねらい

- ・自分のあたりまえだと思えることが、必ずしも周りの人のあたりまえではないことに気づく。
- ・違いをポジティブに受け取り、多様性を理解する気持ちを育む。

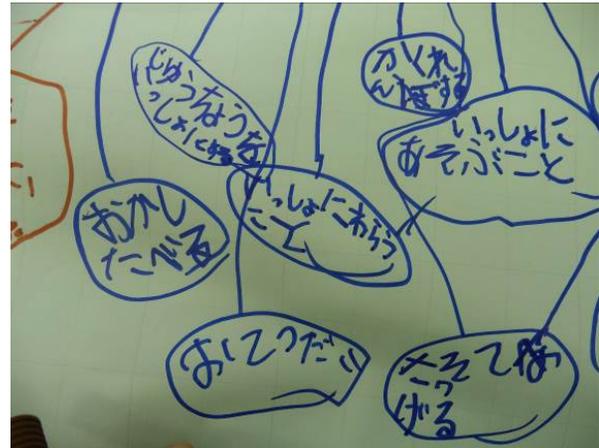
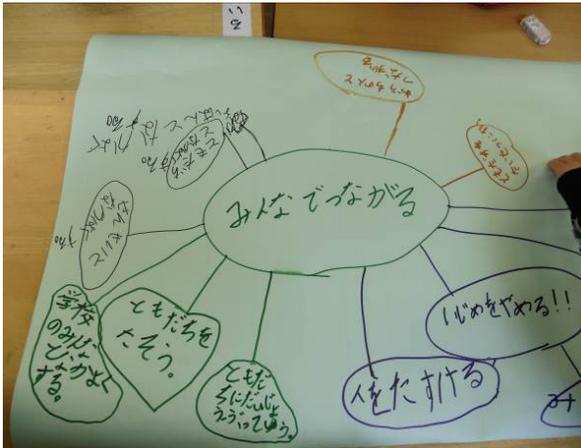
③ その中で、自分が今日からできると思うことを考え、感想を書く。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ ブレインストーミングにも慣れてきた様子で、声に出しながら書き出せる児童や、友だちとの意見に対して相槌や反応ができる児童が増えてきた。

【子ども達の感想】

- ・ともだちとなかよくする。みんなをたいせつにする。
- ・ひとりであそんでいるのがいたら、いっしょにあそぼってさそう。
- ・ともだちがこけたときに「だいじょうぶ？」っていってあげる。
- ・じぶんからだれかにふわふわことばをいってあげる。



3 使用した教材

<教材13> 模造紙6枚、マジック28人分

<教材14> 感想用ワークシート

■ 全体を通して

1 授業の様子

「せんせい、次のつながりの授業はいつするの？」毎回授業が終わると、子ども達はそんなことを言ってくれた。パラグアイについて知れること、友だちと様々なアクティビティを経験することを楽しみにしている様子であった。まだ知識や経験が少ない年齢ではあるが、今回の授業が外国に興味を抱ききっかけとなり、国際理解に向けての学びの第一歩になってくれたらと思う。そして、人との“つながり”を大切にしようとする姿勢を育ててほしい。



＜職員向けの還流報告の様子＞
コシードとチパを食べながら、パラグアイの写真を
みているところ。



＜三学期始業式の様子＞
全校児童がパラグアイの紹介を聞いたり、クイズを
したりしているところ。



＜地域の文化祭くめっこフェスタの様子＞
パラグアイクイズでスタンプラリーをしているところ。



＜地域の文化祭くめっこフェスタの様子＞
3つのお茶を飲んで、マテ茶を当てているところ。

2 参考文献・資料

- 1) JICA 中部 開発教育指導者研修資料
- 2) 外務省 HP